

【活動報告】ウクライナ避難民支援

2022年5月2日(月) ～ 2022年5月8日(日)

【寄付金使用状況】

寄付総額: 74,790,553 円 (2022年5月5日時点)

送金総額: 3000万円 (988,265.09 zł (ズウォティ))

寄付金使用総額: 404,612.08 zł (約1,173万円)

(5月2日(月)～5月8日(日)の期間中の使用額: 70,282.26 zł (約204万円))

【活動内容】

①クラクフ市内の数か所のシェルターへの支援物資提供

引き続き、クラクフ中央駅簡易避難所ボランティアスタッフと連携し、必要物資の購入。



支援所には毎日多くの方が支援物資の受け取りに来ている。

②レストランプロジェクト

各店舗プロジェクト始動2か月目に突入。

写真: Jak We Lwowie クーポン利用者



こちらの店舗では周辺に避難している方たちが連日訪れているため、オーナーもお客さんの顔ぶれを把握している様子。

福田会スタッフが店舗に視察に訪れた際には、クーポン利用者から何度もお礼を伝えられた。

また、クーポン利用者から感謝のビデオレターも頂いている。

③児童養護施設等への支援活動

・ポーランド北部にある児童養護施設・Powiatowe Centrum Młodzieży w Garczynieでは福田会で雇うウクライナ人教師2名が最終決定し、引き続き契約書へのサイン待ちの段階となっている。

・キエルツェにて、ウクライナ避難民のためのポーランド語教室開校
基礎的なコミュニケーションをするためのポーランド語コース(1か月30時間)を検討している。

④ボランティアへの住居提供

クラクフ中央駅簡易避難所及びカリタス支援所にて連日ボランティアにあたっている現地人スタッフのため、宿泊施設の提供を決定。

(現地人スタッフの中には、避難所が出来てから毎日休み無しでボランティアに取り組み、避難所で雑魚寝をしている方もいる。)

クラクフ市内の宿泊施設はウクライナ避難民・観光客で埋まっているところが多いため、継続して探して行く。

【現地の動向】

- ・ポーランドに流入したウクライナ避難民の数は、約300万人(5月5日時点)とされている。
- また、ポーランドからウクライナへ送られた人道的援助物資は18万トン以上に及ぶ。
- ・クラクフ市内で運営している無料の食事所が、資金難のため近々終了予定(終了日は未定)となっている。ここでは2万人近くが毎日食事をとっており、運営終了となった場合の食事支援について課題が残されている。



クラクフ中央広場内では連日デモが行われている。

写真は5月7日(土)正午

ウクライナの平和を訴え、

「私たちはウクライナで生きていきたい。」

と涙ながらに訴えていた。

【今週の活動予定】

- ・各シェルターへの継続した支援物資提供

支援物資の提供及び、シェルター内ボランティアスタッフのための宿泊施設探し。

- ・レストランプロジェクト

各店舗ともプロジェクト始動2か月目に入ったが、店舗によってはレストランの営業をストップしプロジェクトのみに取り組んでいる店舗もあるため、プロジェクトが終了した後のことも視野に入れて営業していただくよう、相談していく。

- ・児童養護施設等への支援

福田会で雇用するウクライナ人教師2名について、契約書確認に時間がかかっているため、1日も早い契約締結を目指し、先方とこまめに連絡を取っていく。
ポーランド語コース開講のための打ち合わせ。

- ・ボランティアスタッフ全員での打ち合わせ

これまでの支援活動での反省と課題を相談する。